

潜伏時代のキリシタン墓碑

この墓碑は、仏式のお墓が並ぶ長崎の経の峰共同墓地の周壁に接して置かれています。墓碑の形状は平置きにした石板上部の中心線両側が斜面になっている「切妻型」です。碑銘の跡はありません。

1614 年にキリスト教禁教令が出された後、キリシタンの共同体は迫害を受けるか強制的に仏教に改宗させられました。その結果、平置きの墓石が多く、背の高い仏式の墓とは違いが一目瞭然のキリスト教式の墓は、容認されなくなりました。19 世紀初期、長崎代官高木作右衛門は、坂本地区にある「変わった形の墓」のことを耳にし、その調査を命じました。しかし、この墓碑がキリスト教に関係するという確たる証拠は得られず、墓碑はそのまま残されました。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている 192 基のうち、146 基が長崎県にあり、その全てが 17 世紀初期のものです。（1581 年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という 3 文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置きの墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。